



制度〈基本〉

運用・商品〈基本〉

運用・商品〈実践〉

その他

身に付けておきたい「金融リテラシー」とは？

金融リテラシーとは、社会で経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な「お金に関する知識や判断力」のことです。私たちは日々の生活でお金と関わっています。お金で誤った判断をしないよう、正しい知識を身に付けるために、金融リテラシーが注目されています。今回は、新社会人として新しくスタートされた方々に向けて、身に付けておきたい「金融リテラシー」を紹介します。

financial literacy?



「身に付けておきたい金融リテラシー」

金融庁の金融経済教育研究会では、4分野（15項目）の「生活スキルとして『最低限身に付けるべき金融リテラシー』」を挙げています。次の4分野について、押さえておきたいポイントを確認しましょう。

1. 家計管理・・・適切な収支管理の習慣化

現状の収入と支出をきちんと把握し、計画性の無い支出は抑え、支出が収入を超えないように適切な収支管理の習慣を身に付けることが大切です。これが全ての前提です。

2. 生活設計・・・ライフプランの明確化

将来の夢・やりたいこと等、今後の人生をどのように送りたいのか、そのためにどのようにお金を準備し使っていくのか、資金面も含めて具体的に計画することを「ライフプラン」と言います。中長期的なライフプランを立て、必要な資金を明確にしておくことが大切です。多様化が進み、費用の大きさや支出の順序には個人差がありますが、一般に「教育費」「住宅購入費」「老後の生活費」は人生の三大費用と言われています。

3. 金融・経済の基礎知識と金融商品を選ぶスキル

金融取引の基本として、契約時の基本的な姿勢や情報の入手先・契約相手の信頼性の確認の習慣化、インターネット取引の利点と注意点の理解が重要です。また、金融商品の基礎知識（単利・複利、インフレ・デフレ、為替、リスク・リターン、手数料等）や、経済情勢に応じた商品選択についての理解が必要です。資産形成における分散投資・長期投資の効果の理解も求められます。

4. 外部の知見の適切な活用

金融商品を利用する際に、分からないことや自力で解決できないことを、金融機関、ファイナンシャルプランナー、税理士等の専門家の力を適切に借りて解決に導く能力も金融リテラシーに含まれます。

「新社会人は、まず家計管理から始めよう」

家計管理では、毎月の収支を黒字にすることが基本です。自身の毎月の収入に見合った支出に収まるよう計画しましょう。給与のうち一定額を天引き等で先に貯蓄に回すと、貯蓄の習慣を定着させやすくなります。

① 収入（手取り額）を把握する

給与から、税金や社会保険料が差し引かれた金額が「手取り収入」です。給与明細を良く確認しましょう。社会人2年目からは住民税の支払いが発生しますので、その分手取り額が減少します。

② 支出を把握する

家賃や食費、光熱費、携帯電話代等、毎月の生活費を基本に、交際、趣味、自己の能力向上のための支出も含めて、手取りの範囲内でやりくりすることを覚えましょう。家計簿をつけるのがお勧めです。

SNSやマッチングアプリをきっかけに詐欺等の手口も多様化し、若い世代が悪質なトラブルに巻き込まれるケースも増えています。金融リテラシーの向上はお金絡みのトラブルを回避する能力の獲得にも繋がります。今後、一人暮らしや結婚等のライフイベント、思いがけない病気や災害、額の大きな出費等、様々な場面でお金に関する知識や判断力が必要とされる機会が増えていきます。そのような場面で適切に判断を行うためにも、金融リテラシーを育むことがとても重要です。



“りそにゃ”とまなぼ！は
毎月発行しています。

バックナンバーはこちら
からご覧いただけます。



<https://www.resona-tb.co.jp/401k/pop/channel/oshiete/>

2025年5月発行

りそな銀行 信託年金営業部
DC運営管理グループ

〒540-8607 大阪市中央区備後町2-2-1

本レターに関するお問合せ先

りそな銀行 確定拠出年金コールセンター
☎ 0120-401-987+「2#」

本レターの無断引用・転載はお断りします。